



登録文化財となった火頭古神社本殿

# 甲賀市の文化財⑩

国登録有形文化財  
(建造物)

## 火頭古神社本殿

土山町猪鼻に所在する火頭古神社の本殿が、11月の国の文化審議会の答申を受けて登録有形文化財に登録されました。

火頭古神社は鈴鹿峠にほど

近い猪鼻の集落の東端にあり、田村川の清流が望める山麓に鎮座しています。由緒によれば、近くの黒川集落に祀つてあつた八王子明神の分霊を当地に勧請したのが始まりとされ、古くは八王子明神、あるいは大宮大明神と称したと伝わります。その後明治の初め頃に当地の地名をとつて「火頭古神社」になつたと言われ、祭神は国狭槌命を祀つています。

真新しい覆屋の中に建つ本殿は、桁行寸法が90センチ余り、建築面積が1・35㎡と小さく、細部に目を移すと、小規模ながらも本格的な造りであることが伺えます。屋根が古式の工法を残す檜皮葺で、身舎部分の間口が二間からなる一間社流造の形式で、細部の意匠や部材の風化の具合から17世紀の後半頃に造営されたと考えられます。木目が緻密な最良の檜材を用い、正面の庇にも木瓜や若葉を彫りこんだ優れた彫刻が施されるなど、工匠たちの技術の高さには目を奪われるものがあります。

国の登録文化財となつたのも、彫刻や、意匠に見られる高い建築技術が評価されたものです。

市内にある歴史的建造物も近年の開発や都市計画の進展、生活様式の変化によつて社会的な評価を受ける前に消滅する危機に瀕しています。登録制度はこうした多様な歴史遺産を守つていくとする制度で、市内では旧水口図書館や大鳥神社楼門など15棟が登録文化財になっています。

この火頭古神社のある猪鼻地区は、街道の面影が色濃く残る旧東海道が通り、近くには数多くの仏像が安置された十楽寺や万人講常夜灯など見るべきところも多く、鈴鹿の関をま近に望む集落として歴史的環境に大変恵まれた地域です。登録文化財になつたことで、新たな町の誇りがまたひとつ加わりました。

【問い合わせ】

文化財保護課

☎ 86-8026  
FAX 86-8380

茶畑の広がる上朝宮から岩谷川にそつて山あいにはいと、やがて道の右側にお堂が見えてきます。奈良時代の創建という仙禪寺の跡で、十一面観音を安置する岩谷観音ですが、舞台のように張り出した建物の下に、鎌倉時代建長元年(1249)の年号を持つ磨崖仏があることを知らない人も多いようです。

岩肌を前にしてやや見上げたあたりに、蓮華座の上に左手に持物を持ち、右手を上げた坐像を大きく、その上に小さな立像を左右に刻んでいます。坐像の持物を薬壺と見れば薬師如来となり、向かって右上を不動明王、左を毘沙門天とすると、天台宗でよく見られる三尊像となるのですが、坐像の頭部には肉髻や螺髪がなく比丘形(僧形)であることから、これを地藏菩薩と見れば、持物は宝珠で右手は錫杖を持たない古い形式になります。

地藏を中心に不動・毘沙門からなる三尊像は、湖南省の妙感寺にもやはり磨崖仏の類例がありますが、全国的には珍しく

一帯に格別の信仰があつたことを考えさせます。

ただ風化が進み、彫りが扁平で像容が読みとりにくいのが悩ましいところです。

市史ではそのあたりを解明すべく、昨夏一日がかりで拓本を採らせていただきました。しかし銘文やこのような三尊像の広がりを含めて、なお検討の余地がありそうです。いずれにしても本市最古であることはもちろん、近畿でも屈指の磨崖仏として注目されます。



拓本で浮かび上がった磨崖仏

## 市史の小径

第7回

上朝宮仙禪寺跡の磨崖仏

【問い合わせ】 総務課 市史編纂係  
☎ 86-8075 FAX 86-8380